1959年1月31日第3種郵便物認可（月615円〒160円、会員は会費に含む）

週刊 うたごえ新聞

1／1・8（2001年）

NO. 1782

THE SINGING VOICE OF JAPAN（UTAGOE）
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169-0072 東京都新宿区大久保2－16－36
☎03（3209）0638 FAX03（3200）0105
E-Mail＝utashin@pop06.odn.ne.jp
振替口座 00120－6－5631 毎週月曜日発行

21世紀！ニライの地球へ

（理想の邦）

○ルポ2001○

沖縄に吹く風

エメラルドグリーンから紺碧へ、琉球の昔から伝えられる理想の邦・ニライへと続くかのように広がる海。強い陽射しが覆うさとうきび畑の大地。沖縄・読谷村。

東シナ海をながめて立つ残波大獅子から村内に車を走らせると、巨大なゾウが入っているようなと比喩される通称「ゾウの檻」米軍楚辺通信所が目に入る。そこからすぐ、さとうきび畑を越えると広い道路が走る。

その道路沿いに、門のように向かって右に「平和の郷」、左に「自治の郷」と刻んだ台座の上に二頭のシーサーが座っている。読谷村の役場入り口である（写真12面）。さらに足を進めて役場の玄関前に立つと、左に「日本国憲法第九条」の条文が刻まれた大きな碑が建つ。赤瓦のゆったりとした作りの村役場、つづきに建つ文化センターは木の壁も真新しいコンサートホールを持つ。これが、「文化で村づくりをし、日本国憲法で闘って基地をなくす」、と村づくりを行った前読谷村村長山内徳信さんの理想の実現の一つ、基地のまん中に建つ（1997年4月）村役場か、とながめる。前の広い道路は滑走路である。

山内徳信さん（65歳）。沖縄が米占領下から日本に復帰した2年後の1974年から6期24年、読谷村村長を務める。その間、三線、踊り、焼き物、織物、農産物、読谷の歴史と文化で村づくりをし、村面積73％を占めていた米軍基地を47％までに縮小した。

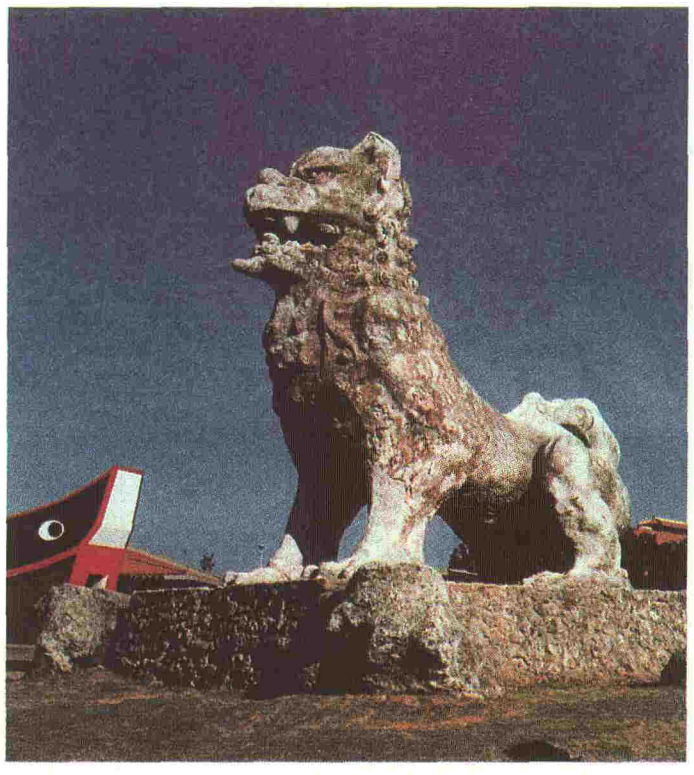
この村役場のコンサートホールで暮れに「まーみなーコンサート シーサーとぞうと子どもたちinよみたん」が開かれた。「沖縄・読谷村の挑戦」（岩波ブックレット）で山内前村長の闘いと21世紀を見すえた村づくりを知り、名護の新海上ヘリ基地反対の闘いの取材とあわせて沖縄を訪ねた。

21世紀の一つの指針ともなる読谷村の「文化で村づくり」を今号より連載で紹介。（12面）

▲読谷村には子どもたちに伝統芸能を伝える舞踊教室も10カ所前後もある

▶読谷・残波から見た海。エメラルドグリーンから紺碧へと広がる

文化で平和・自治の村づくり・読谷村



▲琉球時代からの読谷の歴史を語る進貢船（左）と大獅子

賀正 新年号の記事

詩「あたらしい世紀」（門倉訣）、全国からの年賀状 3面
ワールドうたごえ 二村英仁（ヴァイオリニスト）さん 4、5面
21世紀うたごえの風 フェスティバル2001、幹事長あいさつ 6、7面
北から南からホットライン 8、9面
横手ぼんでん（秋田）
和太鼓らいふ
映画「郡上一揆」 10面
ミュージック・トゥデイ（和田静香）
芸能マンスリー（伊藤 強） 11面
「空を見てますか」（池辺晋一郎） 12面

ふめんだい

21世紀の幕があいた。昨日ときょうの連続ではあっても、世紀の橋渡しに遭遇している。20世紀からひきつぐ大切なもの、その一つは日本国憲法だ。

☆ ★ ☆

「21世紀において、世界の国々がめざすべきことは、戦争放棄の規定のある日本国憲法である」。これは一昨年、オランダのハーグで開かれた世界平和会議で各国共同行動計画10項目の最初に掲げられたもの。平和会議は世界紛争を平和的に解決するため百年前に第一回が開かれ、1907年の第二回、三回目の一昨年の会議で「日本国憲法が世界の目標になった」。

☆ ★ ☆

「日本は原爆が二発落とされ、今も原爆症で亡くなる人が途切れない。たいへん悲惨な経験をし、他の国々にたいへん悲惨な経験を与えてしまった日本が、戦争放棄をきちっと憲法で決めているのは、実は世界史から日本人が課せられた人類史的使命であることを、私たちは気づいていない」と作家の井上ひさしさん。

☆ ★ ☆

「押しつけ憲法」という主張に対しては、ポツダム宣言から論ずる井上氏。コメ、平和、環境、そして憲法と氏の話は明快である。平和、人権、民主主義を貫く日本国憲法を、今世紀もさらに一人ひとりの中に。歌はその生き生きした実現とともにありたい。そのドラマをつないで、今年もご愛読よろしく。（純）